

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4111611085		
法人名	医療法人社団 栄寿会		
事業所名	グループホーム 栄寿荘		
所在地	佐賀県杵島郡江北町大字上小田280-1		
自己評価作成日	令和3年 2月 15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	令和3年3月16日	外部評価確定日	令和3年4月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所の方針として、開放的な施設であることを目指している。入所施設は、つい閉鎖的な環境になりがちなので常に開放的であることをあえて意識している。開放的であることは、利用者様を社会から隔離、遮断してしまうことを防ぐことが出来、また職員の意識や視野が狭くなってしまうことを防ぐこともできる。そのため、家族の面会をはじめ、ボランティアの受け入れ、利用者様の外出、地域行事への参加、そして職員教育では外部研修に参加するなど積極的に行うようにしている。外に目を向けていくことで様々な声を聞くことができ、自分たちのケアや業務を振り返る姿勢を持つことで、利用者様に、より良い生活環境や支援を提供していくことが出来ると考えている。また地域密着型施設として認知症の正しい理解の啓発に努めることも大切な役割の一つと考えている。現在、施設地域の夏祭り参加やボランティアの受け入れ、地域の方々との交流については、昨年からのコロナ禍の為、実施できていない。利用者様とご家族様の面会に関してもコロナ禍で思うように出来ないが、リモート面会や窓越しでの面会を試みている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所開設20周年を迎え、それだけに職員の認知症に関する理解と認識も高い。住み慣れた地域で利用者に関わせた環境が用意され、利用者第一の諸支援を提供している事業所である。「利用者を尊敬、思いやりをもって向き合い、安心して生活できる、笑顔で喜びのある人生を送っていただく」理念が実践されている事業所である。コロナ禍で外出制限がある中で、ホーム周辺を散歩したり、テラスで外気浴をする、車窓からの見学だけのドライブをする等で外出支援を工夫している。例年だと、地域の夏祭りに参加したり、秋祭りの神輿がホームに見えて神輿の中をくぐって祭りの雰囲気を経験する、町から委託されたオレンジカフェや文化祭に参加する、思い出の場所までドライブして住民と接する等地域との交流を図っている。また、事業所は地域の認知症に関する相談的役割も担っている。県が主体の災害派遣チームの協力依頼にも応えている。利用者の楽しみでもある食事には、毎月赤飯を準備したり、誕生日には希望の献立を準備している。季節の行事に関係する献立も準備されている。新型コロナウイルス感染防止策に限らず、日頃から利用者の健康管理、安全管理には万全を期し、医療機関とも密接な連携が保たれていて、利用者や家族の安心感につながっている。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(Ⅰユニット) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(Ⅱユニット) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営							
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念の共有は出来ており地域密着型として地域の方々との交流を大切にしているが、去年よりコロナ禍の為、思うように実施出来ていない。	「私達は良き出会いに感謝し互いに尊敬しあい明るいホームを目指します」をモットーに人として理解し、思いを大切にするケアの在り方を、全職員で理念を共有して個別支援に繋げている。	事業所開設時の運営理念を基盤にして、これまでに勉強会や地域で学んだことを参考に、管理者を含む全職員で創り上げた理念である。理念は職員が何時も目につきやすいリビングに大きく掲示している。毎日の支援や会議の中でも理念を意識することによって、理念の共有と実践ができています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為、交流に関してはなかなか思うように出来ていないがコロナ終息後よりすぐに再開出来るよう連絡を取り合っている。	約1年にわたる、コロナ禍の状況で地域との交流は難しいが、毎週ボランティアで歌や踊りを披露して頂いている方々とは、コロナ終息後はすぐに開催して頂けるよう連絡を密に行っている。認知症カフェの開催も積極的に行えるよう努めている。	自治会にも加入し、地域とのつきあいが年々深まっている。秋祭りの神輿をくぐったり、町から委託されたオレンジカフェを開いたり、地域の認知症に関する気軽な相談場所にもなっている。文化祭に作品を出品したこともある。家庭菜園の畑は、地域の方から提供されたものである。現在コロナ禍の中でも、地域との交流を模索している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	去年はコロナ禍の為開催出来ていないが毎年の認知症カフェ開催や、2か月に1回行っている運営推進会議を通して、認知症を可能なかぎり理解してもらえるような取り組みを行って理解を深めている。	認知症カフェ、運営推進会議、民生委員会での認知症サポーター研修、また老人会での認知症劇を通して、認知症を可能なかぎり理解してもらえるような取り組みを行って、日々努力し理解を深めている。	/	/	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員、区長、老人会長、知見者、包括委員へ月毎の入居者状況、行事報告を行いながら、施設内の情報交換を行っている。認知症の理解を深めてもらいサービスの向上に活かしている。	民生委員、区長、老人会長、知見者、包括委員へ月毎の入居者状況、行事報告を行いながら、施設内の情報交換を行っている。認知症の理解を深めてもらいサービスの向上に活かしている。	コロナ禍の中ではあるが、運営推進会議はきちんと開催されている。報告に終わることなく、有意義な意見交換が行われている。新型コロナウイルス感染症予防対策、オレンジカフェの運営、大型台風接近に伴う避難対策、出張買い物の提案、その他サービス向上に活かしている例は多い。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(Ⅰユニット) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(Ⅱユニット) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に役場包括職員も参加して頂き、施設運営上の問題点や疑問などを伝え、伺いながらサービス向上に努めている。	運営推進会議に役場包括職員も参加して頂き、施設運営上の問題点や疑問などを伝え、伺いながらサービス向上に努めている。定期的に自治体と協力して認知症カフェの開催を行うべく努力している。	行政の担当者が運営推進会議に必ず出席し、利用者の実情や事業所の課題等も共通認識している。また、管理者が直接行政の関係窓口に出かけたり、電話やメール等で相談や報告をする機会も多く、これまで通りの協力関係が変わっていない。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する考え方を全職員で協議して拘束予防に努めている。安全面をやむを得ない場合、ご家族様に説明を行い一時的な玄関施錠やセンサーマットの使用で理解を得られている。	身体拘束に関する考え方を全職員で協議して、安全面をやむを得ない場合以外の拘束予防に努めている。無断離設や転倒、転落等のリスクについては、ご家族様に説明を行い、一時的な施錠やセンサーマットの使用で理解を得られている。	身体拘束の事例は無い。外部研修会や具体的な行為をとりあげての勉強会で、身体拘束の無い支援についての認識も高い。玄関の施錠やスピーチロックを含む三ロックについてもその弊害を認識し、閉塞感の無い支援に努めている。事業所の身体拘束の無い支援と家族の気持ちとのバランスをどうとるかの難しい課題があり、拘束のもたらす弊害を家族と共有するように努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止の勉強会や研修に参加し知識を深めた上で業務に取り組み、虐待に繋がりそうなケアを発見したら職員全員で話し合う機会を設けている。	ミーティングや勉強会、研修等で常に「人権意識」を念頭に置き「認知症高齢者の虐待防止」について話し合う機会を設けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設全体として「権利擁護」について研修会等に参加して、全職員が関心を持ち、利用者様、ご家族様、地域の方の助言を頂き、必要であれば関係機関へ迅速な対応ができるよう支援を行っている。	施設全体として「権利擁護」について研修会等に参加して、全職員が関心を持ち、利用者様、ご家族様、地域の方の助言を頂き、必要であれば関係機関へ迅速な対応ができるよう支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(Ⅰユニット) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(Ⅱユニット) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には可能なかぎりご本人様、ご家族様で施設見学をして頂き、GHの雰囲気、特徴等をお伝えし納得の上で契約させて頂いている。不安、要望等もお尋ねしてサービス内容を十分に説明し理解して頂き、できる範囲で要望に応えるよう努力している。	契約前には可能なかぎり、ご本人様、ご家族様で施設見学をして頂き、GHの雰囲気、特徴等をお伝えしている。納得の上で契約させて頂いている。不安、要望等もお尋ねしてサービス内容を十分に説明し、できる範囲で要望に応えるよう努力している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様やご家族様がいつでも意見や要望を伝えられるよう玄関に意見箱を設置し、職員はその内容を理解した上でケアに活かすように努めている。	利用者様、ご家族様より遠慮なく意見や要望を出して頂きやすい施設の雰囲気作りや、職員との関係作りに努めている。家族様の面会も積極的にさせて頂いており、家族様を通じてご本人様の要望など聞き取り、ケアに活かすように努めている。ポスターを掲示する事で家族様に意識して頂いている。	契約時に重要事項説明の中でサービス提供に関する相談や苦情窓口について説明し、納得をもらっている。ご意見箱も置いているが、何よりも家族の訪問時の対応を大事にしている。食事についての要望を献立に反映したり、毎月のホーム便りに職員や利用者からの一筆を添え、その反応や返事を支援に活かす等、運営に反映している例は多い。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフミーティングでは管理者から幹部会議の報告を行うことで情報共有を行っている。職員が自由に意見を出せるように雰囲気作りを行っている。 また、週1回部門長会議が開催されており、各事業所間での情報共有とともに意見や提案を聞く機会を設けている。	毎月初めにスタッフミーティングを行い、幹部会議での情報を管理者から報告する事で情報の共有を行っている。職員も自由に提案し意見を出せるような機会を設け、反映出来ている。	毎月の定例職員会議では自由に意見が出せるよう、日頃から職員間の信頼関係づくりに配慮している。施設長も日常の業務に携わっており、職員から支援内容や勤務形態の変更などを真摯に聴いている。働きやすい職場環境づくりの提案に上司も応えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見を聞き働きやすい環境を整えている。資格取得のサポート等を行うことで向上心を持って働けるよう努めている。	職員個々の勤務状況や実績を把握し、資格取得や研修会への参加を奨励し、職場環境の向上やサポートを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(Ⅰユニット) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(Ⅱユニット) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護指導者を配置している。職員が毎月の勉強会や法人外の研修に参加することで資質の向上を目指している。	認知症介護指導者を配置している。事例検討会を開催しており、ケアプランの作成にも繋げている。スタッフが外部の研修に参加しており、内部に持ち込み他のスタッフに勉強会で報告し、育成に繋がり、資質の向上を目指している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部での勉強会や交流の機会を作り同業者と連携やサービスの質の向上に努めている。	職員が研修会などに参加する事で他施設との交流を図る機会を作り、同業者との情報交換を行っている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族様とともに施設内を見学して頂きサービスの利用を開始する段階で不安なことや要望に耳を傾け本人様が安心して生活を送れるよう努めている。	ご家族様と共に施設内を見学して頂き、直接施設の印象や要望、困りごとなどをお聞きする機会を設けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人様とともに施設内を見学して頂きサービスの利用を開始する段階で不安なことや要望に耳を傾け家族様との信頼関係も築くよう努めている。	ご本人様と施設内を見学して頂き、不安な事や困りごとなどお聞きする機会を設け信頼関係を築くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期相談の段階からGH内ケアマネジャーも同席し、本人様や家族様の抱えられている問題について十分な聞き取りを行いケアに努めている。	初期相談の段階からGH内のケアマネジャーも同席し、ご本人様やご家族様の抱えられている問題について、十分な聞き取りを行っている。他のサービス利用も含めた対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(Ⅰユニット) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(Ⅱユニット) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コロナ禍において利用者様は家族様や馴染みの方との交流を十分に図れない中多くの不安等を抱えていらっしゃいます。少しでも不安を軽減できるように日々のコミュニケーションを大切にしている。	GH内で利用者様と共に生活を営む中でたくさんの気づきや学びを得る機会が多いと感じている。利用者様の残存能力を十分に発揮して頂けるように努め、信頼関係を築けるように努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様とのコミュニケーションも大切にしており率直な意見を頂けるような環境作りに努めている。	ご家族様とのコミュニケーションも大切にしており、スタッフとの遠慮のない気軽な関係を目指している。素直なご意見を頂けるような環境作りに努めている。カンファレンスにはご家族様も参加して頂き、ケアの方針を一緒に考えて頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域行事の参加や慰問、面会等あり近隣の方々との交流もあるが現在コロナ禍の為、交流が難しい状態である。 再開できる環境が整えばまた、交流や社会との関係を大切にした支援に努めていきたいと考えている。	地域の行事へ参加など近隣の方々との交流もあり、利用者様によるこんで頂いている。ご家族様や近隣の馴染みの方々なども気軽に着て頂けるよう声掛けし関係継続に努めている。	人と人とのつながりを大切にしている。家族とはリモートやガラス越しの面会をするなど工夫している。携帯電話や公衆電話での家族との通話を支援したり、毎月のホームだよりによりに利用者が家族に便りを書くこともある。コロナ禍の中でもこれまでの関係が希薄にならぬように工夫を重ねている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様一人ひとりの性格を把握し、共同作業や細かい作業が好きなお方、その方に合った作業を提供出来るように工夫している。また、性格やペースも考慮し食席や座る位置の配置関係に努めている。	食席の配置なども利用者同士の関係を考慮し、孤立される方がないように工夫している。レク活動の際も一人一人に声掛けしながら行ったり、言い争い等のトラブル時はスタッフ介入し個別に対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在はコロナ禍において、面会制限もあり病院等への面会は控えているが、通常は退居後も様子伺いをさせて頂くなど関係性の継続に努めている。	入院や施設などに退荘された利用者も、面会や様子伺い等にて本人様やご家族様の経過を把握し、少しでもサポートできることがあるなら支援していけるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(Ⅰユニット) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(Ⅱユニット) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント							
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	各担当で随時意向を伺い、実現出来るように努めている。また、ご家族様とも情報共有を行い、これまでの生活歴や趣味嗜好等を活かせるように努めている。	日常の会話や訴えから本人様の思いを汲み取り、また会話ができない利用者様にはその人本位で考えニーズを設定している。ケアプラン更新時には本人様と家族様にご意向の確認をしている。	利用者の担当制をとっており、日々の関わりの中で意思疎通ができていない。会話からだけでなく、つぶやきや表情、行動の少しの変化などから利用者の心情を察することも多い。居室や入浴中等のゆっくりとした時間に日頃の思いが聴けることもあり、利用者本位の支援に結びつけている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様、ご家族様より聞き取りを行っている。本人様が使ってこられた家具や道具等、馴染みのあるものを居室へ置き落着いて過ごして頂ける空間の提供に努めている。また、スタッフ間でも話し合いを行いこれまでの荘での生活歴の把握や引継ぎを行っている。	本人様や家族に聞き取りをしている。何気ない日常会話中でも過去の生活や家族のこと、地域のことなどお話しして頂いた事を支援に活かせるよう努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルサインや表情、行動等から不調の早期発見が出来るように日々の観察、ケアに努めている。また、スタッフ間でも話し合いを行い多方面からの目線での考え方を収集している。	毎日バイタルサインや顔色を確認し体調変化、ADLの状態を確認している。利用者様は一人一人おもしろい生活をされているが、居室で過ごされている利用者様には定期的に訪室し、お声掛けをして様子の確認を行っている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にケア会議を開催し現状の課題について話し合いを行っている。また、それらの事から今後課題となる事を見つけ出しリスクやプランの作成を行っている。事故ヒヤリハットの分析を行い、スタッフ間で話し合いプランの見直しに活かしている。	最低でも6回、月に1回以上ケア会議を開催し介護計画を見直している。ケア会議では原則家族は出席して頂いている。出席できない家族や介護スタッフの意向、意見も事前に評価表に記入し、介護計画に反映させている。	利用者や家族の暮らしについての意向を反映した、具体的で、利用者主体の介護計画である。日常の関わりの中で、利用者や家族の意向を汲み取り、職員全員の様々な意見を取り入れた介護計画でもある。介護計画の見直しは、利用者の状況にあわせて柔軟に行われている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(Ⅰユニット) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(Ⅱユニット) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にケア記録にて、現状の把握を行っている。また、特変等ある際は詳細に伝えることに努めている。毎月実施評価を行い、気づきからプランの変更に役立っている。	個別の介護計画を把握し、担当スタッフが月末に実施評価を行っている。ケア記録はタブレットに入力しパソコンを使って時系列でみたり、特定の事を抽出するなどして情報の共有をしている。月初めのミーティングでは特に気になることを出し合い、スタッフ間で話し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様、ご家族様のニーズに十二分に対応したいと願い、実現できるように努めている。コロナ禍で外出自粛を強いている中で、食べたいもののリクエストや、買い物代行を行う等の対応をしている。	本人のニーズを第一として柔軟に対応している。ニーズに大きな変化がある場合はケア会議を開催し、介護計画の見直しを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍以前は、地域の方たちによる週1回のレクリエーション活動や夏祭りへの参加、施設でのオレンジカフェ開催等行い、施設運営のサポートや利用者様との交流を図って頂いている。	地元の方のボランティアによる歌やハーモニカ演奏、地域の幼稚園からはお遊戯会に来て頂いている。地域行事では夏祭りに参加し地域交流の一資源(交流の場)として活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時は1週間分のバイタルを表として主治医へ提出している。特記事項ある際は別途記入し報告している。特変時の臨時受診や、往診依頼時は詳細に伝え指示や処置を仰いでいる。	本人様の状態を、主治医に把握してもらうように併設の病院とも連携を取り、情報提供を行っている。(病院受診される直前1週間分のバイタル、食事摂取量、排便状況、変化等)	利用者や家族の希望する医療機関での受診を支援している。家族と、受診時の通院の仕方や受診結果の報告のあり方についても、事前に話し合いを持っている。主治医とは何時でも相談ができ、綿密な情報交換と連携が保たれている。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(Ⅰユニット) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(Ⅱユニット) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は利用者様のバイタル面や体調面を情報共有しケアを行っている。併設の病院とも連携し看護師が週1回医療連携による健康観察に来ており、日頃の様子や状態の変化を報告し助言を頂いている。特に気になる方については看護師から主治医へ報告して頂き、適切な受診や看護を受けられるように支援している。	併設の病院との医療連携にて、週1回看護師による訪問があり、利用者様の状態をみている。介護士は利用者様の状態の変化等、気になる事があれば報告し、情報共有を行い助言を頂いている。特に気になる利用者については看護師より主治医へ報告を行い、適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様の入院時は、病状や状態の把握が出来るように訪問を行ったり、ご家族様との連絡を取り情報収集している。早期退院に向けて病院関係者との情報交換に努め、本人様やご家族様が安心して治療が出来るように努めている。	利用者様の入院時は、状態や病状の把握ができるように、入院先の病院へ定期的に連絡を行い、ご家族様とも連絡取りながら早期退院に向けて情報交換に努めている。入院先の病院のCFにも参加し、利用者様、ご家族様が安心して治療が出来るよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に看取りに関する説明や特変時の対応等の話をしている。又、状態の変化に応じてその都度ご家族様と相談を行い、本人様とご家族様の意思を尊重し、ホームで出来る事を説明しながら、方針を共有出来るように取り組んでいる。	契約時に看取りについて説明し、特変時の対応等説明する。入居後、状態の変化に伴いご家族様と看護師も交え相談している。利用者様、ご家族様の意思を尊重し、施設で出来ること説明しながら、方針を共有出来るように取り組んでいる。	重度化や終末期、看取りに関する指針があり、契約時の話し合いで利用者や家族の同意を得ている。健康状態に変化があった時は、利用者と家族の意向を尊重し、チームで支援している。これまで看取りの事例も数例あり、本人が慣れた環境の中で安らかな最期を迎えている。看取りの際は家族も泊まることができ、他の利用者も玄関で最期を見送っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は出来ていない。急変時や特変時は、併設の医師や看護師に状態報告し助言を頂き、適切な対応が出来るように努めている。	定期的な訓練は行っていない。急変や事故発生時は併設の病院の医師又は看護師に連絡し、適切な指示に従い対応出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(Ⅰユニット) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(Ⅱユニット) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者の職員を中心に防災訓練を年2回実施している。119通報マニュアルや夜間火災、停電の対応マニュアルを作成している。又、運営推進会議では区長さんや、民生委員さん等の外部からの意見や提案など頂き協力体制を築いている。防災無線を設置しています。水害時、地震時の訓練は行っていません。今後の課題です。	防火管理者の職員を中心に、年2回防災訓練実施している。119通報、夜間火災、停電時の対応マニュアルを作成している。運営推進会議では区長様、民生委員様等、外部からの意見や提案頂き協力体制を築いている。防災無線を設置している。水害や地震時の訓練は行ってないので今後の課題です。	消防計画に基づき、夜間の火災を想定した避難訓練を年に2回実施している。地元消防団も参加しての訓練である。台風や水害時の避難方法については地域とも協議をしている。非常食や飲料水の備蓄もある。	火災想定避難訓練の実施時刻を昼だけでなく夕刻に行う、避難経路や場所を家族や地域にも事前に知らせるなど、さらに実効性のある災害対策を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の体調面や心理状態を把握し、プライバシーの保護に配慮しながら、人格尊重を重視した言葉かけや行動が出来るように努めている。	利用者様、一人一人の性格や心理状態を把握し、個々に応じた言葉かけやプライバシー保護に努め対応している。ミーティング等にて職員間で話し合い情報共有している。	利用者一人ひとりのその人らしい尊厳ある姿を大切にすることを、あらゆる支援の基盤としている。権利擁護や具体的な接遇に関する勉強会を行い、日常の支援の中で利用者の気持ちを尊重しながらの支援である。個人情報には守秘義務を守り、責任ある取り扱いと管理を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションの中からそれぞれの思いやニーズを把握出来るように努めている。又、思いを言葉に出せない方には表情や動作等で推察しケアを行っている。常に話し合いの場を設け、職員間の情報共有に努めている。	利用者様、個々の思いやニーズを把握できるようコミュニケーションを取り理解するように努めている。認知症の症状により思いを言葉に出出来ない方等は、表情や動作によりニーズを理解するよう努めている。職員間でも情報共有し支援行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ利用者様のニーズに沿ったケアを心掛けている。しかし、業務優先やホームのスケジュールに合わせて頂いており、その事を反省し自覚しながら、出来る限り利用者様の希望に応えられるように努めていきたい。	利用者様のペースに合わせた支援を心がけている。しかし、ホームの時間やスケジュールに合わせて頂いていたり、業務優先になっている職員も多く、その事を反省し自覚しながら利用者様の希望に沿った支援ができるように努めたい。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(Ⅰユニット) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(Ⅱユニット) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容室等へは、ご本人様やご家族様の要望を第一に、好みの店舗へ予約の手配を行っていましたが、コロナの影響により地元の美容室に訪問を依頼、来荘して頂いている。	利用者様の行きつけの美容室に家族様の送迎で行かれています方も美容室に通う事が困難な方もコロナの影響もあり地元の美容室に訪問を依頼している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は調理専門の職員や外注している為、利用者様と一緒に調理等出来ていない。下膳や食器洗い等出来る方には声掛けしお願いしている。又、個々の嚥下状態や好みに合わせて食事形態や食材等を考慮し提供している。利用者様より献立の要望がある時は、メニューに取り入れるよう努めている。一緒に調理が出来ていない分、献立を考えてもらうなどの工夫をしていきたい。	調理は調理専門の方や外注している為、利用者様と一緒に調理が出来ていない。個々の食の好みや食事形態を考慮しながら提供している。また、下膳や食後の食器洗いなど利用者様の出来る時にお願いしている。	食事は、宅食サービスの利用と、ホームの台所での調理を併用している。利用者の嗜好や誕生日に合わせた献立、月に2回の赤飯、献立のアレンジ等で食事の楽しさを味わってもらっている。利用者の健康状態に合わせて、ご飯をふんわりと盛り付けるなどの工夫もしている。食事の座席配置にも考慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに応じた食事量や形態を考え提供している。水分摂取量が少ない方にはゼリーや果物等好まれる物で補給して頂けるよう工夫し、ムセのある方にはとろみをつけ水分補給が出来るように努めている。	個々に応じた食事形態や食事量で提供している。水分摂取量が少ない利用者様には好みの飲み物を提供しムセがある利用者様にはとろみを付けて水分補給できるように努めている。通常の食事が難しい方には補助食品を活用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後自立されている方には声掛けし口腔ケアをして頂いている。介助の方は状態に応じてスポンジブラシ、口腔ケアシート等を用い、義歯については食後の洗浄、夜間帯は浸け置きし、清潔保持に努めている。	義歯を使用している利用者様には夜間帯に全員洗浄液に浸けて頂いている。自立されている方は本人様居室にてされている為、口腔内の確認が出来ていない。介助で行っている利用者様はスポンジブラシを使用したり残渣物がないようにして口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(Ⅰユニット) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(Ⅱユニット) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個人の排泄パターンを把握し、早めの声掛けトイレ誘導にて失禁の減少に努めている。自立されている方には、パット等わかりやすい位置に置き自立支援を促している。	自発的にトイレに行かれない利用者様には本人様に声掛けし誘導したりトイレを促している。認知症の進行により排泄動作の戸惑いや混乱が見られる利用者様には声掛けしながら見守りや介助を行っている。排泄の失敗による不安や羞恥心を最小限に抑えられる支援に努めている。自立されている方にはパット類をわかりやすい所に置き自立支援を促している。	利用者一人ひとりの排泄パターンや習慣に応じた支援が行われている。トイレでの排泄を可能にするために、行きたい時にトイレに行くことができるように、生活リズムにそった支援している。また、使いやすいトイレが整備されている。羞恥心や不安に配慮しての、さりげないトイレ誘導や居室での着替え等の対応支援である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	慢性の方には緩下剤を服用して頂いている。家族様提供の健康茶、乳製品、適度な体操等お一人おひとりに合わせて対応している。	慢性的な便秘の方には緩下剤を服用して頂いています。日頃から水分摂取をこまめに行なっていますが残される方には声掛けし摂取を促している。また、摂取量が少ない方には好みの物を家族様に準備して頂き提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	夏場は週3回、冬場は週2回の設定を行っている。室温や入浴剤を使用し入りやすい環境作りを務めている。(特変時の対応が出来るように併設の病院の主治医在中の時間内に入浴して頂く方あり。)	夏場は週3回、冬場は週2回に設定。毎回、入浴剤を使用し入浴を楽しんで頂けるようにし、室温に注意して入りやすいように努めている。また入浴拒否される方には職員を変えて声掛けをしたり時間を置いて声掛けしている。それでも拒否される場合には別日に入浴して頂いたり次回入浴日に見送る等、本人様の調子に合わせる工夫をしている。	基本的な入浴日はあるが、本人の意向にそって柔軟に対応している。入浴を嫌がる方には、その心を理解し、無理強いすることは無い。脱衣場、浴室の室温にも十分に配慮し、体調が急変しないように留意しながらの入浴支援でもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自室にテレビのある方は見たい番組を見てから、また、ラジオを聴きながらだったり、眠剤を服用している方も自分のペースで過ごし、眠くなってから消灯されている。日中も自室やソファにて、昼寝や休息をされている。	本人様のペースで日中は昼寝をされたり休息されている。就寝時間は決まっておらず眠くなるまで自室や共有スペースのソファにて読書がされたりテレビ視聴されている。眠前薬を服用されている方も同じように過ごされている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(Ⅰユニット) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(Ⅱユニット) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	現病歴と薬剤の理解に努めている。個々に応じてスプーンや、口中介助行い、自立されている方には飲み込みまでを必ず確認している。臨時薬には赤い線を入れ、申し送り簿に記入しスタッフ間で情報を共有している。	現病歴と薬剤の関連性について理解する事に努めている。錠剤での服用が困難な方は粉末にして服用して頂いている。飲み込みまで確認している。薬の変更、臨時薬がある時は、臨時薬には赤い線を入れて申し送り簿に記入し口頭でも情報を共有し記録している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎朝の居室や廊下のモップ掛け、玄関の掃き掃除、洗濯物を干したり畳んだり、新聞を折ったりと自主的に手伝いをして頂いている。貼り絵や塗り絵、気候のいい日にはテラスでの外気浴、月ごとの誕生会、季節に合わせた行事等企画している。	本人様、個々のできる範囲で積極的に洗濯物を干したり、畳んだりして頂いています。また、折り紙や塗り絵など得意分野を生かして職員と一緒に取り組んで頂いている。その月の誕生者の方を入居者様皆様さんでお祝いしたり、季節に合わせた行事を楽しんで頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍において外出支援が出来ていない。感染者が減少傾向の時はドライブにて車窓より花見等して頂き気分転換を図っている。	現在、コロナ禍のため外出を控えている。少しでも気分転換をして頂けるように荘のテラスで外気浴をしたり、近隣を散歩したりなど行っている。	外出制限がある中で支援を工夫している。人と会う機会が少ないホーム周辺を散歩したり、外気浴で新鮮な空気や陽の光を感じたり、外の景色や花壇の花を楽しんでいる。また、車からは降りないで、梅の花や菜の花等の見学にも出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日用品やおやつ購入、美容院代用に自己管理されたり、手元に置いていることで安心されている方、家族様希望にて職員管理している方でも定額を提供し自由に使用されていたりと、様々な支援を行っている。	ご家族に電話をする時用に持たれている方、美容院代に自己管理されたり、手元に置いていることで安心されている方、様々である。また、家族様がすべての管理をされている方、必要な生活用品などの購入用に事務所で管理されている方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(Ⅰユニット) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(Ⅱユニット) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月の個人便りに、本人様に書いて頂いたり、電話を希望される時は公衆電話から自由に掛けて頂いている。また、ipadにて家族様との交流の支援を行っている方もいらっしゃる。	ご本人が電話を希望される場合は公衆電話から自由に連絡を頂いています。また、遠方に住まれている家族様と手紙のやり取りをしたり、毎月の個人便りを本人様に書いて頂いたり支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに貼り絵やポスターを貼り替え、花を生け季節感を取り入れている。安全な導線確保やテーブル、ソファの配置を工夫しつづる空間作りに努めている。また、共有トイレはカーテンにて不快にならないよう配慮を行っている。	季節を感じてもらえるように毎月、ポスターを貼ったり、花や植木を飾ったりしている。また、安全に快適に過ごして頂けるように共有スペースのソファや食席の配置の工夫をその都度行い、居心地良い空間作りに努めている。共有トイレにはカーテンをして不快にならないように配慮している。	昼間、利用者が多くの時間を過ごすリビングは、居心地良い空間になるような工夫が見られる。利用者の状況に合わせてテーブルやソファの配置を変えている。毎日の新聞や、これまでに親しんできた月刊誌も置いてある。一輪の花が季節を感じさせる。どの空間も無用な刺激が無く、清掃も行き届き清潔感がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食席やソファで、仲の良い利用者様同士で過ごされたり、時には一人でテレビを見たり、昼寝をしたり、レク活動をしたりと思いいきに過ごされている。また、状況に合わせて誘導を行っている。	食席やソファで新聞を見られる方やソファでテレビを見たり、お昼寝をされる方もいる。仲の良い利用者様同士はおしゃべりをされたり楽しく過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入荘の際、馴染みのある家具や品物、また家族の写真等を持参して頂き、自宅で過ごされてきた環境に近づけ安心して過ごして頂ける環境作りに努めている。	入荘の際、本人様が馴染みのある家具や品物、また家族の写真などを持参して頂き、自宅で過ごされていた時と同じ空間で落ち着いた生活を送って頂けるよう対応している。	家族の協力を得て、落ち着いて暮らせる居室になっている。使い慣れた家具や馴染んできた品、趣味の作品などの持ち込みに特に制限は無い。亡きご主人の仏壇に、毎朝、職員が準備したご飯とお茶を上げて手を合わせている利用者もある。植木鉢の植物の成長を楽しんでいる方もある。各居室ともその人らしく過ごせる部屋になっている。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(Ⅰユニット) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(Ⅱユニット) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や 「わかること」を活かして、安全かつできる だけ自立した生活が送れるように工夫して いる	各居室にはトイレと洗面台が設置され プライベートな部分が守られている。居室 が分かり易いように写真やネームプレート で対応している。トイレ、廊下、浴室には 手摺りがあり、ベッドは起居動作のしやす い配置にて安全の確保に努めている。	各居室にトイレや洗面台が設置されてい る。利用者が使いやすくプライベートな部 分も守られている。トイレや廊下、浴室な どの共有スペースには手すりがあり、利用 者が安全に快適に生活ができるように工 夫をしている。ベッドは状態に応じ、起 居動作のしやすいベッドを使用している。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)				
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓該当するものに○印をつけてください		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	○	1. ほぼ全ての利用者の
				2. 利用者の2/3くらいの
				3. 利用者の1/3くらいの
				4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	○	1. 毎日ある
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまにある
				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)		○	1. ほぼ全ての利用者が
		○		2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	○	1. ほぼ全ての家族と
				2. 家族の2/3くらいと
				3. 家族の1/3くらいと
				4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)			1. ほぼ毎日のように
				2. 数日に1回程度ある
			○	3. たまに
		○		4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	○	1. 大いに増えている
				2. 少しずつ増えている
				3. あまり増えていない
				4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)			1. ほぼ全ての職員が
		○	○	2. 職員の2/3くらいが
				3. 職員の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。			1. ほぼ全ての利用者が
		○	○	2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。			1. ほぼ全ての家族等が
		○	○	2. 家族等の2/3くらいが
				3. 家族等の1/3くらいが
				4. ほとんどいない